

本年度刊行めざし

『資料編 古代・中世』 現地調査が本格化



調査中の木越祐馨専門部会長(手前)と岡村喜史専門部員(奥)
4月21日 静照寺(徳久町)

『資料編 古代・中世』の来年3月刊行をめざして、調査が本格的に行われています。担当者が古代から中世までの絵図や文献・埋蔵文化財を中心に、専門性を生かして研究・調査活動中です。

4月21日には、木越祐馨専門部会長と岡村喜史専門部員が静照寺(徳久町)の御影像や御消息を中心に調査しました。標題・作成者・宛名・寸法・年代・裏書などをカードに記入したり、写真を撮ったりして記録しました。



親鸞・蓮如連座影像(静照寺所蔵)

文禄2年(1593)閏9月、豊臣秀吉の命によって、本願寺の寺務を弟准如に譲った教如は、隠居ながらも活動を続けた。准如方の圧迫のなか、能美郡では隠居以前の6月に親鸞・蓮如連座影像を授与された土室静照寺のように、教如支持の門徒も多く存在した。彼らは能美郡四日講を結び、同4年、教如より、本願寺11代顕如と親鸞の影像を相次いで授与された。これによって慶長7年(1602)本願寺の東西分派後の同郡では、教如方(東方)が多数を占めたのである。能美市域の浄土真宗寺院・道場はすべて東方であった。

17世紀に入ると、小松町の拡大や村の成立等によって寺院の移動が見られる。元和5年(1619)静照寺が土室(川北町)から徳久、寛永8年(1631)即得寺が小松町から寺井、同9年、称名寺が赤井から小松町に転じた。

『資料編 古代・中世』関係者

奈良・平安時代	森田喜久男（淑徳大学人文学部教授）
鎌倉時代	東四柳史明（金沢学院大学名誉教授）
南北朝時代	瀬戸 薫（かほく市文化財保護審議会会長）
室町時代	石崎 建治（金沢学院大学基礎教育機構教授）
戦国時代	木越 祐馨（加能地域史研究会代表委員）
	岡村 喜史（本願寺史料研究所上級研究員）
	石田 文一（加能地域史研究会会員）
考古関係	垣内光次郎（公財 石川県埋蔵文化財センター嘱託）
	川畑 誠（公財 石川県埋蔵文化財センター参事）
	道下 勝太（中能登町教育委員会学芸員）

『資料編 考古』令和9年度刊行 調査進行中



3月11日（能美ふるさとミュージアム）

灯台笹下遺跡出土の石器をルーペで観察する榎田専門部員。

灯台笹下遺跡は、旧石器時代の石器が多く出土することが特色です。



4月11日（岩本神社）

岩本岩根宮遺跡を現地調査をする垣内専門部会長と道下調査員。

能美丘陵には、中世の墓や石塔などが数多く残っています。



5月7日（秋常文化財収蔵庫）

能美窯跡群の須恵器を調査する望月専門部員。

古代の能美丘陵では、土器を生産する窯業が隆盛していました。

お問い合わせ先

能美市教育委員会 ふるさと文化財課 市史編集室

●〒923-1121 能美市寺井町レ83番地8（能美市立寺井図書館2階）

●TEL 0761-41-5581 ●FAX 0761-57-8401

●E-mail bunkazai@city.nomi.lg